

専門分野Ⅰ：基礎看護学

<概要>

専門分野Ⅰは、各看護学の基盤であり基本となる看護の考え方や看護技術を学ぶ分野です。

講義 11 科目 11 単位 285 時間、臨地実習 2 科目 3 単位 135 時間で構成されています。

「看護学概論Ⅰ～Ⅲ」は看護が人間の健康の保持・増進および回復を目指す看護実践であることを学び、その基盤となる考え方を学びます。「基礎看護技術Ⅰ」～「基礎看護技術Ⅷ」の授業は看護技術を学びます。看護技術は、科学的根拠を学習し、さらに「身体」と「言葉」を用いて関心や気づかい、配慮を表現する技術として対象をイメージしながら講義と校内実習で学びます。

看護技術の学び方は、読んで覚えるのだけでなく、自分で調べ、行動し、行動しながら考え、自分で技術を組み立てる学習です。そのためには、教科書や映像教材、教員の技（わざ）を真似る（模倣する）ところから始まるかもしれませんが、いろいろ工夫し自分の身体感覚を研ぎ澄まして練習してください。練習や訓練を積み重ねることにより看護技術は上達します。授業時間だけでなく自分でまたは仲間とともに実習室を活用し、繰り返して練習する学習をしてください。また看護過程では、クリティカルシンキングやリフレクションのスキルが必要です。よりよい看護を提供するための思考スキルの理解と習得を目指します。

臨地実習は 2 段階で学びます。「基礎看護学実習Ⅰ」は看護活動の現場を、見学を通して医療チームにおける看護の役割を学び、日常生活援助を実施する実習です。2 段階目の「基礎看護学実習Ⅱ」は患者と関係を築きフィジカルアセスメントやコミュニケーションをもとによりよい看護を提供するための考え方や実践の方法としての看護過程を学ぶ実習です。

看護の場は多様ですが基礎看護学実習は基本的な看護の場としてすべて母体病院である浅ノ川総合病院で行います。臨地実習は高校までの講義を受けるような学習方法ではなく、自分から課題を見つけ、考えながらそして経験という実践を積んで学んでいく積極的な学習方法です。また生老病死の現場である病院で患者との出会いや看護の先輩達など様々な人々と関わりながら学んでいきます。また実習という学習方法もこの専門分野Ⅰでしっかり身につけ専門分野Ⅱにある各看護学を学ぶ力をつけていきましょう。

<単位>

14 単位 420 時間

<目的>

看護の本質を理解し、看護実践の基礎となる知識・技術・態度を養う。

<目標>

1. 看護を学ぶ上での基本的な知識を学ぶ。
2. 看護の対象や健康を多様な視点で考察する。
3. 看護実践の根拠となる文献を活用する力を身につける。
4. 基礎的な看護技術を習得する。
5. 事例を通して看護援助を考察する。

<基礎看護学の科目構成と単位時間数等>

科 目	単位	時間	年次	時期	学 習 内 容
看護学概論Ⅰ	1	30	1	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・看護とは ・看護の対象の理解 ・国民の健康・生活の全体像の把握 ・看護の提供者 ・看護における倫理 ・看護の提供のしくみ ・広がる看護の活動領域
看護学概論Ⅱ (看護理論)	1	15	1	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・看護理論の概念 ・看護理論の歴史と動向 ・主な看護理論と看護実践 ・人間関係論に基づいた看護理論 ・セルフケア論に基づいた看護理論 ・システム理論に基づいた看護論 ・現象学と看護理論 ・中範囲理論と看護実践への活用
看護学概論Ⅲ (看護と文献活用)	1	15	1	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・看護と文献 ・文献とは ・文献検索 ・プレゼンテーション
基礎看護技術Ⅰ (活動・休息・コミュニケーション)	1	30	1	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・活動・休息の援助技術 ・コミュニケーションの技術
基礎看護技術Ⅱ (環境・安全・感染予防)	1	30	1	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・環境を整える技術 ・安全管理の技術 ・感染予防の技術
基礎看護技術Ⅲ (食事・排泄)	1	30	1	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・食事援助技術 ・排泄援助技術
基礎看護技術Ⅳ (清潔・衣生活)	1	30	1	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・清潔・衣生活援助技術
基礎看護技術Ⅴ (フィジカルアセスメント)	1	30	1	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・フィジカルアセスメント
基礎看護技術Ⅵ (看護過程・看護記録)	1	30	1	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・看護過程の基になる考え方と理論 ・看護過程の構成要素 ・看護記録
基礎看護技術Ⅶ (与薬・輸血)	1	30	2	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・与薬に関する基礎知識 ・与薬方法 ・輸血療法
基礎看護技術Ⅷ (検査)	1	15	2	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・検査に伴う技術
小計	11	285			
基礎看護学実習Ⅰ (日常生活援助)	1	45	1	前期 後期	<ul style="list-style-type: none"> ・看護活動 ・日常生活援助
基礎看護学実習Ⅱ (看護過程展開)	2	90	2	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・フィジカルアセスメント ・看護過程
小 計	3	135			
合 計	14	420			

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
看護学概論 I	専任教員	1 年次前期	1 単位／30 時間
科目目標			
1. 看護の基本概念を学ぶ。 2. 保健、医療、福祉における看護の機能と役割の重要性を理解する。 3. 看護の対象である人間を統合的に理解し、看護実践の基礎を習得する。			
教科書		参考文献	
1) 茂野香おる：系統看護学講座専門分野 I 看護学概論. 基礎看護学①、医学書院。 2) F・ナイチンゲール著小玉香津子訳：看護覚え書、第7版、現代社、2011.		1) 野嶋佐由美：看護学の概念と理論的基盤、日本看護協会出版会。 2) ヴァージニア・ヘンダーソン著 湯槇ます、小玉香津子訳：看護の基本となるもの、日本看護協会、最新装版、2016.	
評価方法			
筆記試験 レポート			
授業計画			
時間	単 元	授業内容	授業方法
6	看護とは	1. 看護の本質 2. 看護の役割と機能 3. 看護の継続性と情報共有	講義 演習
4	看護の対象の理解	1. 人間の「こころ」と「からだ」 2. 生涯発達しつづける存在 3. 人間の「暮らし」の理解	
4	国民の健康・生活の全体像の把握	1. 健康のとらえ方 2. 国民の健康の全体像 3. 国民のライフサイクルと健康・生活 4. 現代の日本人の健康と生活を考えるキーワード	
4	看護の提供者	1. 職業としての看護 2. 看護職の資格と養成にかかわる制度 3. 看護職者の就業状況と継続教育 4. 看護職の養成制度の課題	
4	看護における倫理	1. 現代社会と倫理 2. 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理 3. 看護実践における倫理問題への取り組み	
4	看護の提供のしくみ	1. サービスとしての看護 2. 看護サービスの提供の場 3. 看護をめぐる制度と政策 4. 看護サービスの管理 5. 医療安全と医療の質保証	
2	広がる看護の活動領域	1. 国際化と看護 2. 災害時における看護	
2	筆記試験		

科目名		科目担当者	開講時期	単位数／時間数
看護学概論Ⅱ (看護理論)		専任教員	1年次前期	1単位／15時間
科目目標				
1. 看護理論を学ぶことの意義について理解する。 2. 主な看護理論の特徴と実践への活用について考察する。 3. 看護実践に活用されている中範囲理論について理解する。				
教科書			参考文献	
1) 筒井真優美編集:看護理論 看護理論 20 の理論と実践への応用、南江堂、2008. 2) 茂野香おる:系統看護学講座専門分野Ⅰ看護学概論.基礎看護学 ①看護学概論、医学書院. 3) ヴァージニア・ヘンダーソン著 湯楨ます、小玉香津子訳:看護の基本となるもの、日本看護協会、再新装版、2016. 4) 江川隆子:ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断、第6班、ヌーヴェルヒロカワ、2019. 5) 黒田裕子:よくわかる中範囲理論、学研.			1) 野嶋佐由美:看護学の概念と理論的基盤、日本看護協会出版会.	
評価方法				
筆記試験 課題レポート				
授業計画				
時間	単元	授業内容		授業方法
2	看護理論と概念	1. 理論・用語の定義 2. 理論の種類 3. 理論の説明 4. 理論の評価		講義
2	看護理論の歴史と動向	1. 看護理論の誕生と開発 2. 看護理論と教育・研究		講義
2	主な看護理論と看護実践	1. フロレンス・ナイチンゲール		講義
2	人間関係論に基づいた看護理論 セルフケア論に基づいた看護理論	1. ヒルデガートE. ペプロウ 2. アイダJ. オーランド 3. ジョイス・トラベルビー 4. アイモジソンM. キング 5. ドロセアE・オレム		講義
2	システム論に基づいた看護理論 現象学と看護理論	1. シスター・カリスト・ロイ 2. マーサE. ロジャース 3. パトリシア・ベナー 4. ローズマリー・リゾ・パースィ		講義
4	中範囲理論と看護実践への活用	1. ヴァージニアA. ヘンダーソンの看護論 看護の定義 基本的看護の構成要素14項目 2. ゴードンの機能的健康パターン 機能的健康パターンの理論的背景		講義
1	筆記試験			

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
看護学概論Ⅲ (看護と文献活用)	専任教員	1年次前期	1単位／15時間
科目目標			
1. 看護における文献活用の意義を理解する。 2. 文献検索方法を修得する。 3. プレゼンテーションの構成と方法を理解する。			
教科書		参考文献	
1) 坂下玲子他：系統看護学講座別巻看護研究、医学書院。		1) 中山和弘他：系統看護学講座別巻看護情報学、医学書院。 2) 上野栄一他：楽しくなる看護研究、メヂカルフレンド社。	
評価方法			
筆記試験 レポート			
授業計画			
時間	単元	授業内容	授業方法
2	看護と文献	1. エビデンス情報に基づいた看護 2. エビデンスと文献検索	講義
2	文献とは	1. 研究成果の記録 2. 身近な学校や施設内のレポート・報告書 3. 学会発表 4. 学術雑誌 5. 図書 6. エビデンスを集めたガイドライン、システマティックレビュー 7. 研究助成金による報告書	演習
4	文献検索	1. 文献データベース 2. 検索キーワードとシソーラス 3. 検索式 4. 文献の所蔵図書館 5. 文献カードの作成	
6	プレゼンテーション	1. プレゼンテーションとは 2. プレゼンテーションの構成 3. プレゼンテーションの方法	
1	試験		

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
基礎看護技術 I (活動・休息・コミュニケーション)	専任教員	1 年次前期	1 単位／30 時間
科目目標			
1. 看護技術の特徴を理解し、看護技術の学習方法を考える。 2. 活動・休息の意義を理解し、援助技術を習得する。 3. 看護援助関係の基本となるコミュニケーション技術を学ぶ。			
教科書			
1) 深井喜代子：新体系看護学全書基礎看護学②基礎看護技術 I、メヂカルフレンド社。 2) 深井喜代子：新体系看護学全書基礎看護学③基礎看護技術 II、メヂカルフレンド社。 3) 任 和子他：根拠事故防止からみた基礎・臨床看護技術、医学書院。			
評価方法			
筆記試験 課題レポート			
授業計画			
時間	単 元	授業内容	授業方法
16	活動と休息の援助技術	1. 活動と運動 活動・運動のアセスメント (ROM 評価 MMT 評価 ADL 評価) 2. ボディメカニクスの基本 3. 廃用症候群と予防 4. 褥瘡の予防 体圧測定※ ボディメカニクスの活用 5. ポジショニング ※ 体位変換 移動動作 (床上) 6. 車椅子での移動 車椅子の構造 車椅子の安全な移乗・移送 ※ 7. ストレッチャーでの移動 ストレッチャーの構造 ストレッチャーの安全な移乗・移送 ※ 8. 歩行の援助 ※ 歩行補助具 9. 安静保持の援助 10. 睡眠の援助 睡眠障害の種類とケア 11. 安楽確保の技術	講義 校内実習※
12	コミュニケーションの技術	1. コミュニケーションとは 2. 患者－看護師関係 3. 看護におけるコミュニケーション 4. コミュニケーション技術を発展させる	講義 演習※
2	試験		

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
基礎看護技術Ⅱ (環境・安全・感染予防)	専任教員	1年次前期	1単位／30時間
科目目標			
1. 健康と環境の関係を理解し療養生活環境の調整技術を習得する。 2. 療養生活における安全管理を学ぶ。 3. 感染予防の技術を習得する。			
教科書			
1) 深井喜代子：新体系看護学全書基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ、メヂカルフレンド社 2) 深井喜代子：新体系看護学全書基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ、メヂカルフレンド社 3) 任 和子他：根拠事故防止からみた基礎・臨床看護技術、医学書院。			
評価方法			
筆記試験 課題レポート			
授業計画			
時間	単 元	授業内容	授業方法
18	環境を整える技術 安全管理の技術	1. 環境の諸要素とその調整 健康と生活環境との関連 プライバシーと環境整備 換気と臭気の排除 室温と湿度の保持 騒音の原因と排除 採光と照明 2. 病室と病床の環境調整 ※ 療養環境のアセスメント 療養環境の調整 色彩と備品の調和 ベッドの種類と条件 3. ベッドメーカー ※ ベッドの構造と機能 ベッドメーカーの方法 4. 離床できない患者のリネン交換 ※ 5. 療養生活における安全管理 ヒューマンエラー 看護事故 転倒転落防止 療養環境における危険防止	講義 校内実習※
10	感染予防の技術	1. 感染予防策 1) 感染源対策 洗浄 消毒（煮沸消毒、熱水消毒、薬剤による消毒） 滅菌（滅菌法、滅菌処理の確認、滅菌物の使用期限） 2) 感染経路別対策 手洗い（スクラブ法、ラビング法） ※ 隔離 廃棄物 2. 感染予防の技術 个人防护用具 ※ （防護用具の着脱：未滅菌手袋、マスク、ゴーグル、ガウン・エプロン） 滅菌物の取り扱い ※ （無菌操作：包装された滅菌物、消毒セットの取り扱い、滅菌手袋の着脱）	講義 校内実習※
2		試験	

科目名		科目担当者	開講時期	単位数/時間数
基礎看護技術Ⅲ (食事・排泄)		専任教員	1年次前期	1単位/30時間
科目目標				
1. 食事と栄養の意義を理解し、援助技術を習得する。 2. 排泄の意義を理解し、援助技術を習得する。				
教科書				
1) 深井喜代子：新体系看護学全書基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ、メヂカルフレンド社. 2) 任 和子他：根拠事故防止からみた基礎・臨床看護技術、医学書院.				
評価方法				
筆記試験 課題レポート				
授業計画				
時間	単 元	授業内容		授業方法
12	食生活と栄養摂取の援助技術	1. 食事・栄養摂取の意義と仕組み 2. 食事・栄養摂取のアセスメント 3. 食欲不振 嘔気・嘔吐の看護 4. 食事の援助 食事の種類と形態 準備とセッティング ※ 食事の介助 ※ 治療食と食生活の指導 5. 経腸栄養 経腸栄養とは 経鼻胃チューブによる栄養摂取の援助 胃瘻・腸瘻による栄養摂取の援助 6. 中心静脈栄養 中心静脈栄養を行う患者の援助 7. 末梢静脈栄養 末梢栄養の基礎知識 末梢栄養を行う患者の援助		講義 校内実習※
16	排泄の援助技術	1. 排泄の意義としくみ 2. 排泄のアセスメント 3. 排泄の援助 トイレを使用した排泄の援助 ポータブルトイレを使用した排泄の援助 ※ 挿しこみ便器・尿器を使用した床上排泄の援助 ※ オムツ交換 3. 排尿障害のある患者の援助 頻尿と尿失禁 排尿困難と尿閉 4. 排便障害のある患者の援助 便秘 下痢 便失禁 5. 排泄に関する処置 浣腸 (グリセリン浣腸 ※) 摘便 一時的導尿 持続的導尿 (膀胱留置カテーテル法)		講義 校内実習※
2	試験			

科目名	科目担当者	開講時期	単位数/時間数
基礎看護技術V (フィジカルアセスメント)	専任教員	1 年次後期	1 単位/30 時間
科目目標			
1. フィジカルアセスメントの意義と重要性を理解する。 2. フィジカルアセスメントに必要な基本知識・技術を学ぶ。 3. 基本的知識に基づき器官系統別のフィジカルイクザミネーションについて、関連づけて理解する。			
教科書		参考文献	
1) 深井喜代子：新体系看護学全書基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ、メヂカルフレンド社。 2) 医療情報科学研究所：フィジカルアセスメントがみえる、メディックメディア。 3) 坂井建雄他：系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①、医学書院。 4) 任 和子他：根拠事故防止からみた基礎・臨床看護技術、医学書院。		1) 小野田千枝子：実践フィジカルアセスメント、金原出版。	
評価方法			
筆記試験 課題レポート			
授業計画			
時間	単 元	授業内容	授業方法
28	フィジカルアセスメント	1. ヘルスアセスメント 身体的アセスメント 心理的・社会的アセスメント 2. 身体計測の意味 健康状態観察事項（内科、耳鼻科、眼科、皮膚科、歯科） 発育測定（身長、体重、肥満度、視力、聴力）※ 3. バイタルサイン測定の意味と方法 ※ 体温、脈拍、血圧、呼吸、意識状態 4. 皮膚・頭頸部のアセスメント※ 皮膚、爪、頭部（頭蓋、頭皮、頭髪、副鼻腔、顔、下顎） 鼻（外観、内部構造）、口腔（口唇、口腔内） 首（外観、気管、甲状腺、頸静脈拍動、リンパ節、頸椎可動域） 5. 眼のアセスメント※ 外観（眼瞼、涙液器官、結膜、虹彩、角膜、瞳孔、レンズ）網膜 6. 耳のアセスメント※ 外観 外耳・外耳道 7. 呼吸器系のアセスメント※ 胸部形態と外観（胸郭、肋骨、呼吸、胸郭の拡張） 肺（横隔膜の位置、打診音、呼吸音、声音伝導） 8. 循環器系のアセスメント※ 胸部の外観、頸静脈、動脈（拍動アレンテスト）、 震動、最大拍動点、心音 9. 乳房・腋窩のアセスメント 10. 腹部・消化器系のアセスメント※ 腸管、肝臓、脾臓、腎臓 11. 運動系のアセスメント※ 深部腱反射、表在反射、病的反射、小脳機能検査 12. 感覚系のアセスメント※ 視覚、聴覚、平衡感覚、表在知覚、深部知覚、複合知覚 13. 脳神経系のアセスメント※ 頭部（第Ⅴ・Ⅶ脳神経）、鼻（第Ⅰ脳神経） 口腔（第Ⅸ・Ⅹ・Ⅺ脳神経）、首（第Ⅺ脳神経） 眼（第Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅵ脳神経）、耳（第Ⅷ脳神経）	講義 校内実習※
2	筆記試験		

科目名		科目担当者	開講時期	単位数/時間数
基礎看護技術VI (看護過程・看護記録)		専任教員	1年次後期	1単位/30時間
科目目標				
1. 看護過程の概要及び意義を理解し、展開の方法を理解する。 2. 看護実践の基盤となる思考過程を学ぶ。 3. 記録・報告の方法を理解する。				
教科書				
1) 深井喜代子：新体系看護学全書基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ、メヂカルフレンド社。 2) 江川隆子：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断、第6班、ヌーヴェルヒロカワ、2019。 3) T.ヘザー：ハードマン：NANDA看護診断の定義と分類、医学書院。 4) 高木永子：看護過程に添った対症看護、学研。 5) 基礎と臨床がつながる疾患別看護過程、学研。 6) 石川ふみよ：看護過程の解体新書、学研メディカル秀潤社。 7) 石川ふみよ：実習記録・看護計画の解体新書、学研メディカル秀潤社。 8) 任 和子他：根拠事故防止からみた基礎・臨床看護技術、医学書院。				
評価方法				
筆記試験 課題レポート				
授業計画				
時間	単 元	授業内容		授業方法
4	看護過程の基となる 考え方と理論	1. 看護過程とは 2. 看護過程と問題解決方法との関係 3. クリティカルシンキング 4. リフレクション 5. 看護過程の変遷		講義 演習
4	看護過程の構成要素	1. アセスメント 2. 看護診断の特定 3. 計画立案 4. 実施 5. 評価		
4	看護記録	1. 医療情報とは 1) 医療情報とは 2) 説明と同意 3) 情報開示と個人情報保護 2. 医療記録における法的規定 1) 種類 2) 法律 3. 看護記録 1) 記録の目的 2) 記録の種類 4. 看護学生の医療情報管理		
16	事例で学ぶ看護過程 展開	演習を通して学ぶ ゴードン機能的健康パターン		
2	試験			

科目名	科目担当者	開講時期	単位数/時間数
基礎看護技術Ⅶ (与薬・輸血)	専任教員	2年次前期	1単位/30時間
科目目標			
1. 与薬に伴う看護師の役割と責任を知る。 2. 薬物の作用・投与量・投与方法を理解する。 3. 注射法の技術を習得する。			
教科書			
1) 深井喜代子：新体系看護学全書基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ、メヂカルフレンド社。 2) 任 和子他：根拠事故防止からみた基礎・臨床看護技術、医学書院。			
評価方法			
筆記試験			
授業計画			
時間	単 元	授業内容	授業方法
28	与薬・輸血の技術	1. 与薬に関する基礎知識 薬物療法の理解 (体内動態、作用・副作用、処方箋、法律、劇薬・毒薬・麻薬の管理) 薬物療法における看技師の役割 (コンプライアンス、結果予見義務、結果回避義務) 薬物療法を受ける患者の援助 (患者のアセスメント、薬品の確認方法(6R)、指導) 2. 経口与薬法 剤形 患者のアセスメント 方法 3. 外用薬 口腔内与薬法 直腸内与薬法 皮膚用製剤 点眼・点入法 点耳法 吸入法 6. 注射法の基礎知識 注射法における看護師の役割 針刺し事故防止 注射器・注射針の取り扱い アンプル・バイアルの取り扱い ※ 注射による合併症 7. 注射法 皮下・皮内注射※ 筋肉内注射 ※ 静脈内注射 ※ 点滴静脈内注射 ※ 8. 輸血療法 輸血療法の基礎知識 輸血療法の方法 9. 酸素吸入療法 酸素吸入療法の概要 酸素供給方法(酸素ボンベ、セントラルパイピングシステム ※) 酸素ボンベの取り扱い※ 酸素吸入療法の方法	講義 校内実習※
2	試験		

科目名		科目担当者	開講時期	単位数/時間数
基礎看護技術Ⅷ (検査)		専任教員	2年次前期	1単位/15時間
科目目標				
1. 検査時の看護師の役割を理解する。 2. 検査に伴う看護師の役割と責任を知る。				
教科書				
1) 深井喜代子：新体系看護学全書基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ、メヂカルフレンド社. 2) 任 和子他:根拠事故防止からみた基礎・臨床看護技術、医学書院.				
評価方法				
筆記試験 課題レポート				
授業計画				
時間	単 元	授業内容		授業方法
14	検査に伴う看護技術	1. 検査を受ける患者の理解 身体面の理解 心理面の理解 2. 検査に伴う看護の役割 安全面からの援助 安楽面からの援助 3. 検体検査と生体検査 4. 検体検査に伴う看護技術（1）排泄物の検査 尿検査 ※試験紙による尿検査法 便検査 喀痰検査 5. 検体検査に伴う看護技術（2）血液検査 動脈血採血 静脈血採血 ※真空採血管を用いた静脈血採血 毛細血管採血（簡易血糖測定） 6. 検体検査に伴う看護技術（3）穿刺液検査 胸腔穿刺 腹腔穿刺 骨髄穿刺 7. 生体検査に伴う看護技術（1）放射線検査 X線検査（X線検査全般、消化管造影） X線断層撮影（CT） MR I 血管造影 8. 生体検査に伴う看護技術（2）内視鏡検査 上部消化管内視鏡検査 下部消化管内視鏡検査 気管支内視鏡検査 9. 生体検査に伴う看護技術（3）その他の検査 超音波検査 脳波検査 核医学検査		講義 校内実習※
1	試験			

科目名	科目担当者	開講時期	単位数/時間数
基礎看護学実習 I	専任教員	1年次 5月 1年次 12月	1単位/45時間
履修条件			
12月履修について			
1) 実習開始までに以下の単位を取得、もしくはその見込みがあること。 基礎看護技術 I・II・III・IV			
2) 授業科目の試験に欠席した場合や出席時間数の不足によってこれらの受験資格がない場合は履修できません。			
3) 心身ともに健康な状態であることが基本となるので、心身に問題がある人は治療を受け自己管理ができていること。			
科目目標			
目的：看護を実践する基礎的能力を養う。			
目標：			
1) 看護活動の実際から看護の役割と機能を理解できる。			
2) 患者に関心をもち、関係を築くことができる。			
3) 患者が療養する病室・病床環境を整備することができる。			
4) 病気、障害をもつこと、入院することによる生活活動への影響が考えられる。			
5) 指導のもと基本的な日常生活援助技術を実施できる。			
6) 実習で感じたこと、考えたこと、学んだことを述べられる。			
7) 専門職業人を目指す者としての学習姿勢・態度をもつ。			
実習場所		評価方法	
浅ノ川総合病院 病棟		実習内容、カンファレンスの内容、実習記録、実習態度、事前学習等から総合的に判断する。	
授業計画			
1. 実習期間および実習時間			
5月 1.5日間 9.0時間			
12月 6日間 36.0時間			
2. 実習方法			
5月			
・病院の看護管理者から実習病院の概要・組織・機能・看護部の活動について話を聴く			
・看護部の看護理念（方針）・看護活動目標・各病棟の看護活動目標および看護方式について話を聴く			
・一人の看護師について看護活動を見学し看護の役割と機能を学ぶ。			
12月			
・患者を1名受け持つ。			
・受け持ち患者とのコミュニケーションを通して療養生活を知る。			
・受け持ち患者の個別を考え日常生活援助を計画する。			
・計画した生活援助を実施し、評価する。			

科目名	科目担当者	開講時期	単位数/時間数
基礎看護学実習Ⅱ	専任教員	2年次 前期	2単位/90時間
履修条件			
<p>12月履修について</p> <p>1) 実習開始までに以下の単位を取得、もしくはその見込みがあること。 基礎看護学実習Ⅰ 看護学概論Ⅰ・Ⅱ 基礎看護技術Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ Ⅴ Ⅵ</p> <p>2) 授業科目の試験に欠席した場合や出席時間数の不足によってこれらの受験資格がない場合は履修できません。</p> <p>3) 心身ともに健康な状態であることが基本となるので、心身に問題がある人は治療を受け自己管理ができていること。</p>			
科目目標			
<p>目的：看護を実践する基礎的能力を養う。</p> <p>目標：</p> <p>1) 患者やその家族を理解するために自分から関わるができる。</p> <p>2) 患者の身体的状態を理解するためのフィジカルアセスメントを実施できる。</p> <p>3) 看護過程を用いて科学的思考に基づいた看護援助を実施する。</p> <p>4) 専門職業人を目指す者としての学習姿勢・態度をもつ。</p>			
実習場所		評価方法	
浅ノ川総合病院 病棟		実習内容、カンファレンスの内容、実習記録、実習態度、事前学習等から総合的に判断する。	
授業計画			
<p>1. 実習期間および実習時間</p> <p>2年 6月頃</p> <p>90時間 (7.5時間×12日)</p> <p>2. 実習方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者を1名受け持つ。 ・患者とその家族を理解するためにコミュニケーションをする。 ・身体状態を理解するためにフィジカルアセスメントをおこなう。 ・看護過程を展開し援助を行う。 			

基礎看護学 基礎看護技術評価一覧

学籍番号

氏名

専門分野Ⅰ 基礎看護学実習Ⅰ(後期)までに習得する技術						
年次	時期	科目	技術評価項目	技術評価日	評価回数	押印
専門分野Ⅰ	1 前期	基礎看護技術Ⅰ (活動・休息・コミュニケーション)	車椅子移乗・移送			
		基礎看護技術Ⅱ (環境・安全・感染予防)	リネン交換			
		基礎看護技術Ⅳ (清潔・衣生活)	※援助項目のうち1~2項目			

専門分野Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱまでに習得する技術						
年次	時期	科目	技術評価項目	技術評価日	評価回数	押印
専門分野Ⅰ	1 後期	基礎看護技術Ⅴ (フィジカルアセスメント)	バイタルサイン測定			

専門分野Ⅱ 臨地実習までに習得する技術						
年次	時期	科目	技術評価項目	技術評価日	評価回数	押印
専門分野Ⅰ	2 前期	基礎看護技術Ⅷ (検査)	真空採血管を用いた静脈血採血			